

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区教育ビジョン検討委員会（第7回）
事務局（担当課）		庶務課
開 催 日 時		令和元年9月13日（金）午後3時～午後4時30分
開 催 場 所		豊島区役所 教育委員会室（本庁舎8階）
議 題		(1) 計画（案）について (2) その他
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	明石要一 秋田喜代美 野間口雄三 守屋仁子 田中英治 松浦和代 田辺貞子 矢嶋篤子 武居裕子 和田健男 鶴岡清恵 倉本大資 宮澤晴彦 山本聖志 田中真理子 （敬称略）
	そ の 他	学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、 教育センター長
	事 務 局	庶務課長、庶務課庶務担当係長（教育政策グループ）、同主事

審 議 経 過

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 計画 (案) について
 - (2) その他
- 3 閉会

<議事>

- (1) 計画 (案) について

委員長：それでは議事に入ります。

資料につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局：(資料に基づき説明)

委員長：ありがとうございます。今2つの資料の説明がございました。最初の説明はパブリックコメントで頂いた13件のご意見等を細かく分けて整理したものになっております。課長からは、新たな2019のビジョンの変更点を踏まえてのご説明がございました。それでは、今日は最後ですので皆様の意見を伺いたいと思います。その際、大きな変更は無理だと思っておりますので、この辺は今後展開する場合に、このようにすればもっと良くなるということや、こういう成果物をどのように広報に出せばよいかや、普及するのにはどうしたらよいかなども踏まえてご意見を頂くと非常に助かります。それでは野間口委員からお願いします。

野間口委員：見せて頂いてすごく分かり易くなったし、また今日新しく見たやつはもっと変わっていてさらにブラッシュアップされたもので、素晴らしいと思います。これをどうやって進めていくかと、本当に素晴らしいことが書いてあって、これが実現できれば本当に素晴らしいと思いますが、その中で重点項目とそうではない項目分かれています。重点項目だけでも担当部署はほとんど指導課になっていて、指導課はすごく大変だと思います。人数が少ないのに、現実的な問題として、これをどのように進めていくのか、またその為にチームを発足するのか、そのようなところが心配です。素晴らしいものが出来て、それは良いのですが、それが絵に描いた餅にならないようにどうやっていけばよいのかということだけが心配です。

委員長：非常に今、大事なご指摘がありまして、かなり指導課の担当が多すぎるのです。私今短大に行っておりまして、短大は正規の先生が16名、事務員も16名しかいません。一人が入試担当とすると、その人が病欠した場合は誰も分からないです。それで3分の1のことを理解しましょうとしました。そうしないと小さい職場は回っていきません。だから、指導課の誰かが倒れたら推進出来ないと困るので、行政内部

で分担を理解していくという、フロアが同じ場合はいいんですが、フロアが違うとだいたい意思疎通できませんね、そういうことを考えて頂いて、推進いただきたい。大事なご指摘です。

野間口委員：もう一つは、教育委員会の中だけでやろうと思うと人数は限られているので、すごく大変だと思うので、色々な委員さんや関係部署をうまく使って働いてもらうというのが良いと思います。そうやって、やってくれる方は多分たくさんいると思います。

委員長：是非、その辺を。例えば安倍内閣は批判もありますけれども、担当大臣をたくさん用意します。そのように、ゆくゆくこのビジョンを実現する為には、何とか担当というのを決めて頂いて、終われば辞めて頂くとかどうでしょうか。ありがとうございました。守屋委員お願いします。

守屋委員：昨日届いた資料を読ませてもらいながら、方向性とかがきちんと明確に書かれていますが、その取り組みはと思ったときに、少し薄いなと思うところもありましたが、でもパブリックコメントを読ませて頂いたら、もちろんこれはビジョンであって中身を作っていくのはこれからというようなコメントも書いてありましたので、その通りだなと思ったことと、この作ったものを多分現場の先生達と共有しながら進めていくということが一番大事だと思いますので、こういうものを先生達を読まないというか、熟知しないままということもあるのかなと思うと先ほど野間口委員がおっしゃったように、絵に描いた餅にならないような方法、仕組みが、必要だということを感じました。あまりにもたくさん、もう膨大なので、学校の現場は、いかにシンプルにと思いますが、加えてビジョンがこれだけ細かく掲げられるのだなということを感じました。でも子供達の為にとということ、ビジョンを実現するために、学校にみんなが力を注いで、地域とできる為にというところを実現させて欲しいなということ強く思っています。

委員長：田中委員お願いします。

田中（英）委員：先日、小学校の校長先生とお話しする機会がありまして、やはり教員の働き方改革の話が持ち上がりました。小学生が8時半から4時くらいまで学校にいます。学校にいる間は、先生は子供達の為に縛られて、自分の仕事が出来ない、それで仕事は4時から9時まで、今個人情報を持ち帰ることが出来ないで、学校で仕事をしなくてはならないので、ほとんどの先生が残って仕事をしているというような現状で、それで、小学生の高学年で英語が必修になったり、プログラミングのようなものも入ってくると、果たしてそれは出来るのかなという気がしました。今、民間で優秀な方を代用教員として使って、それで空いているところで先生が自分の仕事ができるようなシステムにしていけないと回らなくなっているのではないかと、先生が全て仕事を抱えているのではないかとというような気がしていますので、その場合は少し変えていかなければいけないのかなと思うのと、先日巢鴨北中学を

見学させて頂いて、環境の良いとても素晴らしい学校が出来たと思いますが、先ほどのパブリックコメントと選択制の間に良い学校が出来ると周りの子供達、親御さんも良い学校で学ばせたいとなると、やはり集中してしまい、逆に周りの学校の生徒が減ってしまって、なかなか難しいような教育関係になるのかと、これは順次学校を改築していけば解決するのだけれども、その時代時代の子供達が必ずなかなか味わえないという気がして、その辺は意見したいです。

委員長：はい、ありがとうございました。松浦委員お願いします。

松浦委員：今回とても嬉しく思ったのは、第5章に地域応援ネットワークを入れて頂いた、これが一番私にとっては大事なことで、やはり学校の中が先生の問題ですし、外については私達地域が目配りして、考えを言っていかなければいけない時代になってきました。こういうことで、学校の先生が出来ないことを私達が担って、大それたことは出来ませんが、情報提供しながら子供達を良い環境の中で見守るかたちにすることが大事かと思いました。本当に細かくまとめて頂いて、担当指導課がすごく多いかたちですけれども、その辺は、うまくそれぞれの持ち場で学びの場を築いてあげる事が、大事かなと思いました。実は、子ども・未来応援あり方検討会の結果が実は私たちフィードバックしていなかったもので、ここで改めて確認させて頂いて、会議がどのようなことだったのか確認できたのでとても嬉しく思っております。ありがとうございました。

委員長：はい、ありがとうございます。田中委員お願いします。

田中（真）委員：私はこの4月から参加させていただきましたが、今回教育ビジョンを見させて頂いていただきまして、若干パブリックコメントの件数が少ないのが寂しいなとは思いましたが、かなり作りこまれているビジョンですのでこれに対して意見を言うのはなかなか大変なのかなと思っていました。新しいビジョンの中では連携例として色々な子ども家庭部での事業も沢山書き込んでもらいましたし、そういう意味では大きな組織同士の垣根をこれまで以上に乗り越えて、子ども家庭部としては、教育さんに片足どころか両足を突っ込んで、これから一緒にやっていきたいと思っておりますし、人事の交流もやっておりますので、新しいビジョンとそれから子ども家庭部の方でも、子供の新しい計画を作っておりますので、その中にも教育ビジョンのあり方、理念など注入して頂いて、相互に頑張っていければと思っておりますので、今回は大変勉強になりました。ありがとうございました。

委員長：はい、非常に力強い発言を頂きました。ありがとうございました。千代田区は子ども教育部と言っているのですよね。教育委員会というのを辞めまして、子供と教育委員という、18歳まで皆が応援しようという、児童対象の厚労省関係の役所と、教育委員会が良い意味でドッキングしたという、今回も豊島区も事務方が書き込んでくれて、是非お力をおかし頂ければと思いました。では、山本委員お願いします。

山本委員：3点お願いしたいのですが、まず、パブリックコメントとフィードバック、つまり

寄せて頂いた方への回答などされているのでしょうか。

事務局：まだしておりません。これから、ここで決定いただいて、教育委員会と相談した上で、その後になります。

山本委員：色々なことを色々な人が言うのだなということもありますけれども、すごく丁寧に回答されていると思います。例えば5ページのところで、おそらく質問に絡めてだと思えますが、校則って中学校では使いません。学校の決まり、校則って、よくブラック校則みたいなことがあります。学校の決まりということですし、別の場所では制服と言わずに標準服と言います。強制力を持たせないように言っていますので、出来ればその様な丁寧な対応をしていただきたいと思えます。それから、明らかな誤字ですが、10ページの30番の項目ですが、補習のシュウが違っていたりするので、是非フィードバックする時には、表現を見直して頂いて関心を持っている方により良いかたちにして差し上げたいかかという意見です。2点目が、漏れかなと思うのですが、ビジョンの15ページにいじめや不登校の発生状況というのがあるのですが、状況についての記述がないです。流れで言うと、例えばグラフ、発生の件数などの差支えのないものであるならば、15ページの余白のところに、もしかしたら、持ってきてしかるべき内容なのではないかと思うのですが、多分漏れたのか、欠けたのか分かりませんが、これが載っていないと逆に何だろうと思われるので、差支えのない範囲でお示しした方がよいかと思えます。それから、3点目ですが、多分28ページ以降、目次と実際のページがずれているかと思えます。その辺りを点検お願い致します。

事務局：ご指摘ありがとうございます。

委員長：では、兒玉委員お願いします。

兒玉委員：やっぱり129も施策があると、仕事の負担がすごく大きくなると思っています。政策担当課長などの組織が作られれば良いかと思ひ、出来れば区長に掛け合って委員の皆様からの後押しを受けて実現できればと強く思っております。129もあると、私も今の仕事の体制では難しいと思ひます。あと、委員の皆様からご指摘いただいたことは働き方改革ですよね。現場の先生方の働き方改革、我々も手をこまねいているわけではなく、色々やってはいるのですが、中々厳しいところがありますので、解決策として、ある意味、姿なのでしょうけれども、松浦委員がおっしゃったように、地域の素晴らしい皆様の人材を活用して何とか出来ないか、まさにコミュニティスクールのモデル校など、そういうところも人材を活用して何とか改革等事務局の人員体制も強化して施策を実現したいと強く思っているところです。ありがとうございます。

委員長：では、宮澤委員お願いします。

宮澤委員：今回色々見えて、今129という話がありましたけれども、私はそんなに驚かないです。何故かと言うと今まで豊島区でやってきた中身が入ってきているのがまず

一点あって、現場で驚くかというそれ程ではなく、今やっていることがたくさん入ってきています。それで、先ほど田中委員のおっしゃる通り、確かに忙しいのでそれをどのように進めていけるのかということだと思のですが、私は働き方改革といろいろ言われている中で、学校が一番時間を割いているのは何かというと、家庭の抱える問題や心の問題、これはとても時間がかかります。保護者とのやり取りもそうです。そういった中で、先程、松浦委員のおっしゃった、今、南池袋小ですが、民生委員さんやあるいは、子ども家庭支援センターさんがとても支えようとしてくれて、今回良かったと思ったのは、連携した取り組みと書かれている、取り組み例として書かれているだけではなく、それをどのように繋がっているかというのが、実は教材研究だとか評価だというのは時間がかかるのですが、それ自体よりもっと他のことで社会というものを支えようとして下さっていることをアピールしておきたいです。教員もその部分がアピールされることによってこのビジョンの良さと 89 ページ、88 ページというのは、例えば教材をきれいにするとかかかもしれない、実際にこれが出来ました、どうかたちで進めていくかという、そちらの方が大変だとは思いますが、推進委員会ではないですが、せっかく作りました、これを幼稚園・保育園と小学校が連携するという風には書かれていますが、実際にそれをどのような時間帯にどうするのかという、そこがこの後に続く大事なところかと思しますので、この計画は完成されて、現場としてもこれを進めることは意欲をもってできると思しますので、その辺の本の作りこみと言いますか、アピールの仕方は大切だと思います。

委員長：ありがとうございました。では、倉本委員お願いします。

倉本委員：こういった会に初めて参加したわけで、まずこういうビジョンを作成する大変さとか 129 の施策というものを計画してプロジェクトを実行していこうとすることに関心をしました。私が応募した動機というのは、単純にプログラミング教育とかを教育現場でどう考えられているのかというところが、注目していた点だったのですが、例えば施策の一つとして取り上げられているのですが、例えばプログラミング教育を絡めてアクティブラーニング的な所を実施したりプログラミングは突き詰めていくと世界中でやっていることなので、英語など多文化に繋がったりするので、これは私のプログラミング教育という視点ですが、施策に出す力があるのかなと、ちょっとした感想です。

委員長：ありがとうございました。鶴岡委員お願いします。

鶴岡委員：こういった機会を与えて頂いてとても勉強になりました。読む限り現場の先生方、現場の方々がいかに大変かというのが、すごく痛感しまして、地域として教育は絶対必要だと感じていました。ひとつ家庭の方に、行政から支援というのは保護者の方がされていて、子供がストレスになったり、負担になったりしていることがたくさんあるので、その辺も考えて頂けたらと思います。

委員長：ありがとうございました。次は、和田委員お願いします。

和田委員：送られてきて、私も忙しいので何となく見ただけなのですが、その時に最初の条例部分の1ページで計画策定の趣旨、これ良いなと思いながら読んでいったのですが、私ぐらいの年代になるとPDCAサイクル、パブリックコメントにもありましたが、横文字が出てきます。計画、実行、評価、改善を繰り返すことにより教育活動の充実を計ると、日本語で書いてある方が私は分かり易いです。23ページにもこのPDCAサイクルと出てきますが、それでも良いとは思いましたが、それから第3章のコラム、これはすごく良いと思いました。それで豊島区の課長が、だんだん教育としまということを受け継がれているということをつかれないという話がありましたけれども、もしよければ、統合が、要小があり千登世橋も、もう21年目です。小学校29校、中学校13校あったのが、8校と22校、そういう歴史を付け加えて頂ければ、20年経つと、昔のことになってしまい、知らない人も多いので、長崎小が130年くらいですか、長崎第一尋常小学校になって要小が第二尋常小学校で、そこから千早小があって高松小があって、また平和小があってということをごどこかで、記憶にあるのでしょうかけれども、これを読んだ方にも今うちの子供が行っている学校はそうなのだという、ひよっとしたら改善することになってくるというか、必要ないかもしれませんが、せっかくコラムがあったので、そう思いました。それから、先生方の働き方改革で、今、ちょうどお祭りがありますが、学校の校長先生などは、休みのところ、わざわざご挨拶にくるのですが、地域の人間として、来られるというのが当たり前みたいな、何々小学校の校長先生今年来ないなどと言う方もいらっしゃいます。働き方改革で地域の人達の考え方も変えていかななくてはならないのかと思い、少し発信したいです。副校長先生などは6時半ころに出勤する先生も多いですし、夜も8時過ぎまで、本当に改革は進んでいません。ある面で、地域との関係の場面でだけでも、少し工夫されたいかかと思いました。地域の理解というのがひとつ。それから、もう少し欲しかったのは、11ページの小、中学校の児童生徒で小学校は児童が増えていますが、中学校の生徒は横ばいか少し減っています。児童、生徒の兼ね合いもあるのでしょうか、小中の連携ももう少し欲しかったと感じました。他は129、100ページを超すすごく分かり易く、読んでいてドキドキするくらいの感じを受けて、すごく良かったと思います。

委員長：ありがとうございました。小中の連携というのは、ずっと言われているけれども出ていない。文科省としましては、義務教育学校、もう法律を作ったのですから、義務教育学校というのを先導的に将来的には1校か2校用意するとか、先行事例もあっても良いかと、そうしないと連携と言ってもなかなか上手くいっていないです。その辺の問題を考えなくてはならないです。例えば、千葉の浦安は、学校建築では小中一貫の建築して、校長先生は小学校と中学校に置いて、廊下で結んでいます。全然交流がないです。校長を2人置いたらダメです。一人にはできないのですか。

そうするとある教育長が、校長ポストを減らすと困るという理由で反対しました。1校にすると校長も教頭も1人減りますから、非常に難しいと、せつかく法律も出来ましたが、良い結果が出ていますので、一つ検討して頂きたいです。ここでは、文言は入れませんが、そういうこともあるということを考えて頂くことも大事かと思えます。それから、豊島区の統合はもうないのですね。では、武居委員お願いします。

武居委員：ありがとうございます。私は、本当に素晴らしいものが出来たかと感じております。後ろの方に用語の説明がついていましたが、読んでいる人が後ろを見ながらだと大変ではないかと思いましたが、どこかに米印や番号などであれば、読みやすいのではないかと思います。横文字や用語について米印で番号など付いていると、後ろの用語解説も探しやすく、読み解きができやすいのではないかと思います。以前小学校の校外学習というか、そういったことが財源的な問題で、少し削られたりしていたと思いますが、子供の育ち、保育園でも遊び場が足りないなどなってきたので、小学校で色々な体験や経験をすると、低学年にしても、今英語が入って来てはいるのですが、そういったところで、体験や経験をもっともっとさせていただければ子供達の成長、伸びが良いのではないかと思います。実は今日、小学校のふれあい給食もあり食育一つとっても、子供達がさやえんどうやトウモロコシの皮をむいたり、保育園でも実際食育でそれくらいのことはやっていますが、それよりも、全然やったことの無いお子さんがいるというところで、体験、経験するということは非常に大切なことなのではないかと思いましたが、これは区の方をお願いして、そういったものが削られないように、是非お願いしたいと思えます。それと、社会状況で一番、パブリックコメントの後ろの方に載っていたのが気になったのですが、14番、15番ですが、社会状況的にいろいろな問題が出てきているなかで、こういったお子さんもどんどん増えてきたりすると、先生方も大変だと思いますので、こういったことに関しても指導学校で、先生方にご指導して頂くと良いのかと思えます。働き方改革などで非常にたくさんの時間を先生方がやってらっしゃる、自分達の心のゆとりや体のゆとりができないと子供達に対してもなかなかそういったことはできないと思えますので、そういったことが出来るように働きかけた改革はして頂きたいのですが、先生方の質などについても、ご指導いただけると良いのかと思いました。

委員長：ありがとうございます。一番初めにおっしゃった用語ですが、前の方に全部載せるのが大変でしたら下のページの上の方にもってきた方がよいのではないのでしょうか。

事務局：作業が間に合わなくて、本当は米印を入れてという形を考えていたのですが、各ページの下に入れるという手法もございますので、より見やすい方法を事務局で再度確認した上で製本の方にもっていきたいと思えます。

委員長：ありがとうございました。では矢嶋委員お願いします。

矢嶋委員：私も豊島区で住んで、豊島区で子供を産んで、豊島区でお世話になって育てて頂いて、皆さんの苦勞があつて生活が出来ているのだとここに来て本当に感じる事が出来ました。幼稚園の立場から発言させていただきます。就学前教育から一番初めにもってこられたということは、とても嬉しいことで、10月から幼児教育の無償化も始まるなか、国が幼児教育のとても大事な、最優先事項と言つていいくらい、教育の中で、幼児教育がとても効果が高くて大事なものだと思つたことだと思つます。それが豊島区では一番にきているというのを心にしていきたいと思つました。これから、幼小の連携の中に私立幼稚園も入つていけるのだなということを楽しみます。私立幼稚園は、子育て支援課の管轄になり、保育課とも違う、教育という課とも違うということで、どこに何を言えばいいのかという、もちろん子育て支援課が一生懸命してくださっているのですが、武居委員のところは小学校に人氣があるのですが、私立幼稚園はほとんどないと言つてよいと思つます。区立と入っていないところは市立も入っているということですよ。

委員長：ありがとうございました。田辺委員お願いします。

田辺委員：参加させて頂いたことは、非常に勉強させて頂きまして、本当に有難い時間を頂いたと思つております。ありがとうございました。私は育成委員の方から来ましたので、どうしても地域として子供を守っていくという観点でこれを拝見させて頂いて、地域の中の位置づけというものをとても分かり易く載せて頂いて有難かつたと思うのと、先程おっしゃつたようにもっとそれぞれの担当を持っている、私達は普段からそれぞれ何か手助けをもっと出来るものではないかと思つておまして、民間ボランティアの活用をもっともつとして頂けたらと思つております。その中でも、最近ひろばクラブというのがありまして、豊島区は緑が少ない中でもボランティアを活用しながら、緑をたくさん使おうというのがありまして、私は地域の中でも沢山いろいろなことが出来るのではないかと、ほんとわずかな、路地のようなところを使つたり、そういうのを拝見させて頂いて、私達の地区は、ほんとに何もないというか、緑がない地区なのですが、それでも何か活用できるものというのが、頂いた今日の資料の中で、地域の中で根だつてやつていけば、何か自分達の力が出てくるものもあるのではないかと、このことを勉強させて頂いた気がします。私が欠席した時に出たのかもしれないので、分からなかつたのですが、小学校ではスクールカウンセラーなどいらして、そういった取り組みが出来ているのですが、幼稚園とか保育園の中で、お母様方の支援というか、その辺りについて聞きそびれたので、少し残念な気がします。ちょっと気になるお子さんですとか障害児とかになつてくると、発育発達の専門の先生が毎月巡回で来ていただいたり、そういったお子さんの親御さんと話がしたい親御さんについては、時間を取つて頂いたり、お話をさせて頂いたり、あとは、今はお子さんだけではなく、親御さんの気持ちが波の

ある親御さんが多かったりで、そちらの対応が大変なときもありました。

委員長：各委員から貴重な意見を頂きました。本当にありがとうございました。それで、出来るものは細かい微修正、文言等、構成の内容は変えていきたいと思います。これで豊島区教育ビジョン 2019（案）を決定してよろしいでしょうか。

（各委員了承）

委員長：予定を変更いたしまして、次の段取りがありますので、この案をお渡ししたいと思います。よろしいですね。

事務局：本来でしたら、委員長、副委員長のご意見をお伺いしてから、お渡ししようと思ったのですが、教育長の予定がずれておりまして、先にご入室いただいて、その後ゆっくり話を伺いたいと思っております。

（教育長入室）

委員長：豊島区教育ビジョン 2019（案）についてでございます。豊島区教育ビジョン検討委員会運営要綱の規定に基づきまして、本委員会におきまして、豊島区教育ビジョン 2015 の改定について審議をした結果、別添のとおり豊島区教育ビジョン 2019（案）を取りまとめました。ここに、ご報告いたしたいと思っております。よろしくお願い致します。

事務局：委員会を代表いたしまして、委員長一言ご挨拶をお願い致します。

委員長：あいさつ

教育長：あいさつ

（教育長退室）

事務局：では、副委員長ご意見をお願いします。

副委員長：この委員会に加えて頂きまして、色々な委員の方のお話を伺うことがとても学びになりました。私自身、豊島区に30年間住民としてもお世話になり、その時は保護者だったので、このようにして教育が考えられるということを知ることが出来て大変うれしく思います。先程、和田委員がおっしゃいました24ページ、25ページ、豊島の教育の歴史というものを今回初めて知りまして、芸術劇場などよく通っているところが、東京学芸大学の跡地であったとか、非常に先進的な教育のスピリットを持って、ここの地域は教育にあたってきたのだということ、今回初めて知りました。あえて言うなら、これを過去のこととせずこれからもその精神で持って豊島区は新たな教育をこの伝統を受け継ぎ進んでいくということが伝わるメッセージ

をこれが出た後、保護者の方や関係者の方に配られるときに何かご説明頂ければよいだろうと思います。129の施策が上手くまとまっている一方で、この表紙だけを見ると教育委員会からトップダウンに下りて来るイメージの方が強く、実はここにおられる委員の方々の多様な声によってこれが作られていて、それを引き受けてやっていくのも指導課や学校だけではなく、私達一人一人なのだというメッセージをどこかで出して頂けると、この方々は関わっていただける方が委員になっていらっしゃるのでは分かってらっしゃるのですけれども、そういう視点がこれから皆が自分事で当事者意識をもって豊島の教育を皆で作っていくというメッセージが重要だろうと思いつつ読みました。そういう意味で、良く出来ていて有難いと思いつつ、更に、欲深なので考えれば、88から89ページで計画の進行管理が5年でうたれるのですが、是非中間などで、これがもっと今後本当になされているのだろうか、最後になって反省して到達度がどうかということ以上に、もっと今の時代では更に大事なのではないかとかPDCAと言われるもの、事後の教育に関する事後の評価委員会では事務的な点検と評価はされるかもしれませんが、参加者から見た時にというのでしょうか、実際に関わっている区民から見てどうなのかというところが、中間なりどこかで評価がなされるということが、せつかく策定しても、単に業務が執行されているかということではなく、それに関わってどんなことがうまれているのかということや共有するような機会があるとうれしいのではないかと、1点目は皆で作ったというようなところのメッセージをこれからの教育の歴史と共にという、2点目は中間の評価的なものを、どこかでどなたかがやって頂くということが、策定したものとしては重要だろうと思います。更に、細かなことを言うと、教育長も話してくださいましたように、就学前からのことが入れて頂けて嬉しいなと思いつつ読んでいきまして、88、89までくるのです。これは報告書から出ているのでやむを得ないなと思いつつ、最後の連携イメージになると園は落ちるわけです。それでこの図を見て頂ければ保育士さんは入っているのですが、幼稚園は関係ない図になります。私は結構色々な区や国でそうやって言い続けながら、いかに乳幼児期から入れて頂くかというのに苦心してございまして、是非これが報告書であればこのままでやむを得ないかもしれませんが、是非、保育士だけではなく幼稚園教諭も保育教諭も保育者として、また、園と学校も皆が連携しながらやっていくというようなことを、微妙にどこかに入れて頂くという方が今回のビジョンにはふさわしいのではないかと思いました。もっと細かいことをもう1点だけ言わせて頂ければ、豊島区らしい7か条や教育の歴史が出てきているので、この表紙が綺麗なものが出来ると思いますが、豊島区のとまたま配られたメモ用紙の豊島区のシンボルイメージのようなものが出てきているということが、豊島区をイメージできる、皆が手に取れる、そういうようなことがあると、一章から五章のなぜか本のチャッカーが出ているのですが、豊島区らしいイメージが見えてくると

もっと親しみがわくように、さらに印刷のときには、工夫して頂けるとよろしいのかなと思いました。たいへん細かなことまで申し上げてしまいましたけれども、自分の住んでいる区が今後どうなって、どこかと統廃合されるのだろうかと思っていた時代もありまして、それがやっぱり100年経っても崩れない区になり、教育都市というか、先進の区として今後発展できる基礎になっていけば有難いと思いました。

委員長：貴重な意見有難うございました。後発はありますね。そこにも何か入れてあげると良いと思います。

事務局：今のご意見で是非直していきたいと思っております。最後に委員長お願いします。

委員長：今回の中で、教育都市としまというのは、教育長の話では前々回でもありましたが、もっとキャッチアップしても良いかなと思いました。教育コラムというのは、大正自由教育というのは、8つのプランがあるのですが、その一番きっかけは池袋で野口援太郎さんがやったのがきっかけです。井戸を掘った方が、あるんですよとか、青い鳥も今年は童謡も100年でそういう意味では記念すべき年でもあります。豊島区は発祥という感じがしますので、その辺を改めて教育都市としまというのを出していければというのが1点、もう1点は88ページを教育委員会だけではもうだめですよ、もっと色々なものと連動したもので、教育を位置づけましょうというロゴをここで図で書いてくれています。こういう子どもと教育をとりまくネットワーク、行政のネットワーク化と言っていますが、これをやって頂くと非常にお互いが助かるというか、それを今回出たかなと、そういう意味で89ページ、イラストも先駆者で難しかったかなと、3つ目は、武居委員もおっしゃいましたが、子供達の第三の居場所といいますか、サードプレイスと言うのですが、家庭と学校があって第三の居場所づくりというのを考えなくてはいけない、教育委員会だけではなく、違う部局との連動しながら居場所を作っていくという、NHKのEテレビが関心を持っています。余談ですが、最近小学生中学生が昔は誕生日会というのがありましたが、今は親が家でやるのを嫌がり消えてしまったそうです。それで、子供達がお金を出し合ってファミレスで誕生日会をやって喜んでいるというのをどう思うかというのをEテレビが追及したらしいです。ある意味第三の居場所です。かつては都立高校生が打ち上げでお酒を飲んで問題を起こしましたが、今は中学生がファミレスで7、8人集まって遊んでいる。それを親たちがアウトソーシングというか、家でやられたら困るから、外でやってくださいという、そういう意味では子供達の第三の居場所というか、サードプレイスを豊島ではどうしていくかというのがこれからも大事だと思います。最初に幼稚園と保育所のも問題を出してくれて、非常にこれはいいかなと、とにかくトップにもってくるということが大事なので、昨日教育社会の学会をやっておりまして、学会で一番脚光を浴びているのが、幼小の接続が上手くいっていない。特に小学校の先生方含めて、ある調査では幼稚園、保育園

までは、非常に連絡帳があつて、こまめに1人1人見てもらった。小学校に行くと、連絡帳もないし、連絡帳を友達に預けて持って行ってもらうなど、落差がありすぎて戸惑っています。小学校の低学年の父兄は、繋がり保育というのが今流行っています。幼児期は非常に繋がっているが、綱渡りではなかったという意見もあると言われていいますので、今一度、幼小の接続も含めて、小中の接続も含めて、これから考えていくと、教育都市としまの良さが出るかと思えます。あと皆さん表紙の色は何が良いでしょうかね。豊島区の区の色は何色ですか。裏に、この色は豊島区の色ですと明記した方が良いのではないですか。予算があれば、教育ビジョン 2019 を PTA を含めて、各学校、地域単位で議論していくというのがあると良いです。

事務局：それでは、有難うございました。以上をもちまして1年以上にわたり皆さんにご協力いただきまして、本当に感謝申し上げます。有難うございました。本委員会は全て終了となります。これを持ちまして閉会とさせていただきます。誠に有難うございました。

3 閉会

提出された資料等	<p>資料1 「豊島区教育ビジョン 2019－豊島区教育振興基本計画（第Ⅱ期）－（2019年～2024年）（素案）」に関するパブリックコメントの実施結果について</p> <p>資料2 豊島区教育ビジョン 2019－豊島区教育振興基本計画（第Ⅱ期）－（2019年～2024年）（案）</p>
----------	--